



有限会社 吉田工業

vol.30

2025年6月15日発行





上越事業所

YANAI MASARU 柳肉 優

長年の建設業界での経験を活かし、2017年より有限会社吉田工業の現場第一線で活躍されている柳肉優さん。上越事業所でチームを率いながら、現場での作業から人間関係の調整まで幅広く担っています。「現場に必要なのは技術だけでなく人の和」と語る柳肉さんに、これまでの歩みや若手社員への思いを伺いました。

吉田工業に

入社した経緯を

お聞かせください。

中学校卒業後すぐに建設関係の仕事に就き、長年にわたり建設機械のオペレーターとして現場で経験を積んできました。ご縁があり当時の取引先であった吉田工業に入社しましたが、最初は用語や扱う機械など覚える内容も多く、戸惑いばかり。仕事に真摯に向き合いながら少しずつ慣れていくことができ、気づけばこの仕事にやりがいを感じるようになっていました。

主な業務内容について 教えてください。

現在は上越事業所に所属し、主に現場作業にあたっています。機械の操作から現場の段取りまで、「何から何までやる」というスタイルで日々の業務を遂行しています。今の現場では、元請けや協力会社の方々とも密に連携を取りながら、現場全体が活気のある雰囲気になるよう意識してきました。やはり人と人との関係性、和を大切にすることが、現場を円滑に進める鍵だと感じています。

吉田工業でこれまで

頑張ってきた理由は何ですか。

昔の吉田工業には仕事の中に「楽しさ」がありました。和気あいあいとした雰囲気、仲間同士が助け合いながら仕事を進めていく空気がありました。今は時代も会社も少しずつ変わってきています

が、それでも「餅は餅屋」の言葉どおり、それぞれの分野にプライドを持った職人が集まる会社であることに変わりはありません。どのような現場でも、職人一人ひとりの気持ちややり方を尊重しながら、和をもって仕事を進めていく姿勢が自分に合っていたからこそ、長く続けてこられたのだと思います。

理想の

職場づくりに向けて、 取り組まれている

点は何でしょうか。

現場には話しかけやすい人とそうでない人など、さまざまなタイプの人がいますが、自分の役目としてなるべく自分から声をかけ、距離を縮めるようにしてきました。現場を円滑に回すためには、やはり人間関係が大切です。吉田社長のようになら積極的に関わり、教えてくださるリーダーの姿

勢を見習い、自分も現場の空気づくりに貢献していきたい。現場がうまく回っているときほど、雰囲気づくりの大切さを実感します。

若手社員への期待や

助言があれば

お聞かせください。

仕事は一人で行うものではなく、皆で協力し合って進めるもの。だからこそ、現場では「コミュニケーションが何より大事になります。危ない場面では「危ないぞ」と声をかけ合い、「これはこうやって進めるのだ」と具体的に伝えていくことが、事故のない現場づくりにつながります。

若手は最初、「何が危険なのか、何をすべきか」がわからないもの。だからこそ、ベテランである自分たちが積極的に声をかけていく必要があると思っています。昔は「仕事は見て覚える」と言われていましたが、今の時代には通用しませ

ん。言葉で伝えるだけでなく、動きで見せて教えていくことが必要です。

加えて、失敗を恐れない気持ちも大事。誰でも間違えることはあり、それを次にどう活かすかが成長のわかれ道です。わからないものはそのままにせず、「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」の精神で、恥ずかしがらずにどんどん聞いてほしい。そして何より、挨拶ができる人になってほしい。仕事の基本は挨拶から始まります。

最後に、

社員の皆さんに向けて

伝えたいことを

お聞かせください。

この仕事は精密で、危険をとまなう作業もあります。安全第一を心がけ、無事故・無災害を目指す働き方が何よりも大切です。そのためにも自らの体を大事にして、しっかりと休むことを忘れてはい

けません。

吉田工業には、プライドを持った職人たちが多く在籍しています。それぞれの持ち場でお互いに支え合いながら、無理なく長く続けられるような職場にできればと考えています。

どのような現場でも「人の和」を第一に考える柳内さん。今後現場を支えるリーダーとして、吉田工業の発展のためにますます活躍していきます。

企業情報

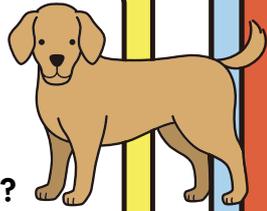
設立年：1987年5月12日

年商：12億円

※2023年3月時点



自分を動物に例えると？

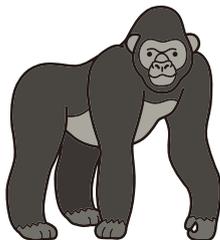


役員の皆さんの特性を大調査！自分が似ていると思う動物を答えていただき、
知られざる人物像に迫りました！皆さんは自分を動物に例えると何だと思いませんか？

かわむら ひろし

取締役常務 **河村 博**さん

「ゴリラ」



繊細な一面を持つ平和主義者

ゴリラは、強そうな見た目に反して、実は温厚で平和主義的な性格をしているそうです。それが、争いごとを嫌い、周囲と仲良くやっていたいという私の思いと重なり、ゴリラを選びました。意外にも繊細な面があるという点も共通しています。私は人の気持ちや体調の変化に敏感で、いつもと様子が違う社員には声をかけることもしばしば。また、見た目についても、ゴリラとは親近感を抱いています(笑)

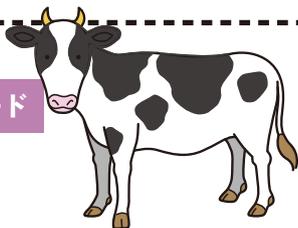
ゴリラに似ていると感じるエピソード

協調性を重んじるコミュニケーション

10歳ほど年下の社員から、「取締役の中で一番話しやすい」と言われたことがあります。私はもともと現場に入っていたわけではなく、技術の面では若手社員のほうが上手(うわて)だと思っていることから、同じような目線で話ができているのかもしれませんが。ロールモデルにしているのは、社長です。社長が年齢や立場に関係なく社員と接している姿が魅力的で、私もそのようになりたいと思っています。周囲との調和を図るコミュニケーションは、ゴリラの平和な性格と似ているのではないのでしょうか。

牛に似ていると感じるエピソード

危険を察知すると発動する「闘牛モード」



普段の私の約9割は大人しいのですが、残りの1割はいざというときに闘志を燃やす「闘牛」になります。例えば高所作業で安全帯を装着していない社員を見かけたときには、自然とスイッチが切り替わります。

社員の安全を第一に考えているため、現場でのルールが守られていなかったり、無茶をしていたりする場合は、ゆったり穏やかなモードから厳しい「闘牛モード」に切り替えることを大切にしています。

すずき のぼる

取締役常務 **鈴木 昇**さん

「牛」



基本はゆったりマイペース、 ときには「闘う」ことも？

干支が丑年(うしどし)であることと、ゆったりとした動きが自分と似ていると思い選びました。牛には乳牛と肉牛が存在しますが、肉牛の方が自分に近いと考えています。ときには肉牛から「闘牛」になることもあるかもしれません(笑)

あきやま まさひろ

取締役専務 **秋山 正弘**さん

「クマ」



おおらかさと厳しさの二面性

大柄な体格からも、「クマ」のイメージが合うと思います。性格は、「くまのプーさん」のように穏やかなときもあれば、「グリズリー」のように厳しい一面も持っています。現場で私を見ている人たちは、私がクマそのものであると感じているのではないのでしょうか。年齢を重ねるにつれて、「くまのプーさん」に近づいていきたいという思いがあるものの、一方で、現場ではときに「グリズリー」のような厳しさも必要だと考えています。

クマに似ていると感じるエピソード

安全に関わることには 「グリズリー」の一面を発揮

特に危険が伴う現場において、業務に不慣れな方や集中力が欠けている方を見かけると、「グリズリー」に豹変します。命に関わる作業があるため、そのような状況では気を引き締めることが求められます。また、中堅社員には「現場を引っ張ってほしい」という思いから、厳しい言葉をかけることも。相手をリスペクトしながら仕事をする事の大切さを、しっかりと伝えていきたいと思っています。

≪稲吉さんに聞く!≫

マネジメントの

コツ



取締役 上越営業所
所長

いなよし こういち

稲吉 甲一さん

マネジメントでは、「人」を相手にするため難しさを感じることもあるでしょう。そこで、上越営業所で所長を務める稲吉さんに、新人や若手との向き合い方をお聞きしました!コミュニケーションのコツにもつながるため、ぜひ参考にしてみてくださいはいかがでしょうか?

新人や若手との関係性を築くポイント

話し方や接し方に配慮して

コミュニケーションを取る

年齢が離れていると、言葉遣いや接し方によっては高圧的だと感じられることがあります。まずは高圧的にならないよう、同じ目線で話すことが大切です。私の場合は、仕事の話だけでなく、趣味の話をして相手の人となりを観察することもあります。

経験が浅い方に教育を行う場面では、何度も教えてあげないと理解が追いつかないことがあるでしょう。そのようなときは、焦らずゆっくりとお話するように心がけています。結論から伝えるのではなく、「なぜできなかったか?」などを聞き、順を追って説明すると良いと思います。

新人や若手を早く即戦力にするために大切なこと

培った経験から目標を設定し、

過程や結果を見極める

「ここまでしかできないだろう」と決めつけず、少し高め目標を設定してあげると成長が早く、本人も充実感を得られるでしょう。一人ひとりの目標や結果は、長年積み重ねた経験から見極めていきます。例えば、本人は一生懸命やったのにできなかったのか、怠けてできなかっただけなのかは、見ていればだいたいわかります。

また、普段からコミュニケーションを積極的に図り、相手が自分の意見を伝えてくれるような環境づくりを行っています。そうすることで、少しずつでも本音を話してもらえて、適切な指導にもつながるのではないのでしょうか。

マネジメントするうえで最も大切だった経験

仲間の離職を止めるのは至難の業

一緒に働いてきた仲間が離職したり休みがちになったりすると、気が滅入ります。どちらも本人の問題であり、解決はなかなか難しいと思いますが、本人にとって一番良い選択をしてもらえるように話を聞くことを心がけています。ときには、周囲の人に近況をそれとなく聞くことも。話をして解決することもあれば、解決せず辞めてしまうこともあるため、マネジメントするうえで大変な部分だと感じました。

新人や若手へのアドバイス

相手を選ばず、 綺麗な言葉遣いを心がける

若手から中堅に上がるときは、人をマネジメントしなければいけません。このとき大切なのは言葉遣いです。目上の人や年下、お客様に関係なく、相手には平等に綺麗な言葉を使った方が良いと思います。例えば、呼び捨てではなく、〇〇くんや〇〇さんといった呼び方をすると良いでしょう。挨拶に関しても、言葉遣い一つで印象が変わります。なかには、自分の会社のほうが上の立場だからと不適切な話し方をする方もいますが、それは避けるべきことだと考えています。相手が不快に思わない心配りをしなければ、関係性は成り立たないことを忘れないようにしましょう。

中途入社だからわかる！ 吉田工業の 魅力



てつ てるあき
工事一課 鐵 照朗さん

吉田工業の仕事で 感じるやりがい

安定した環境で見つけた 心のゆとり

私は、「何か大きな目標を成し遂げたい」というよりは、「安定した環境で穏やかに働きたい」と考えています。以前の職場では、時間に追われる生活に疲れを感じていました。現在は、ワークライフバランスが取りやすくなり、落ち着いて日々の作業に取り組んでいます。心の余裕ができたことが、日々の充実感に繋がっていると思います。

他社を知っているからこそ気づく、吉田工業の魅力とは？今回は2名の中途社員の方にインタビューし、入社を決め手や実際に働いてみた感想について、語っていただきました。この機会に会社の魅力を再発見してみましょう！

前職における仕事内容

ボイラー周辺設備の業務に携わり、主に建設現場での作業に従事していました。

入社を決意した理由

安心して働ける環境に惹かれて

前職では、労働環境が整っているとは言い難い面もありました。そこで、「次はもっと安定して働ける、しっかりした会社に入りたい」と思い立ち、出会ったのが吉田工業です。福利厚生が整備されており、給与や各種手当についても明確な規定があるところに魅力を感じました。

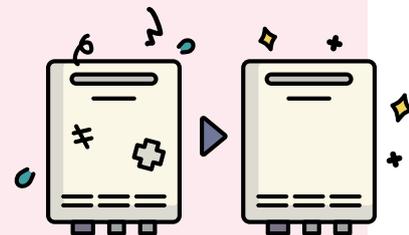
入社してわかった吉田工業の魅力

魅力1 期待通りの福利厚生

入社してまだ半年ほどですが、期待していた通り、給与や社会保険料の控除などの福利厚生がしっかりしている点は、大きな魅力です。

魅力2 経験が活かせる働きやすさ

現在はボイラー関連の業務も多く、これまでの経験が活かせるため、働きやすさを感じています。



魅力3 「普通」であることの価値

会社のすべてを理解するにはまだ時間が必要ですが、日々「普通に働けている」ことが、実はとても大切なのではないかと実感しています。

YOSHIDAKOGYO

前職における仕事内容

吉田工業の下請け会社で、主に建設関連の機械の点検を担当していました。

入社を決意した理由

皆さんのあたたかい人柄に惹かれて

前の職場で面識があった石川部長からのお誘いで入社しました。**石川部長の他にも知り合いがいましたが、皆さん明るく人当たりの良い方ばかり。**話すのが得意ではない私に対しても、気さくに話しかけてくれました。コミュニケーションが取りやすく、「すぐに馴染めるだろう」と感じたのが入社を決め手でした。



入社してわかった吉田工業の魅力

魅力1

業界でも高水準な 給与と福利厚生



同世代と比べても給与はかなり高く、福利厚生も充実していると感じています。安心して長く働ける環境です。

魅力2

手厚い資格取得支援と キャリアアップ

特に資格取得を応援してくれるのは非常に助かります。講習会や受講料サポート、資格手当も手厚く、**例えば、施工管理技士なら年間10万円の手当も。**私も多くの資格を取得し収入アップを目指したいと思っています。

魅力3

経営幹部から 直接指導を受けられる環境

現在は、専務と同じ現場を担当しており、ベテラン社員のそばで働きながら直接貴重なアドバイスをいただけるのも、吉田工業の大きな魅力の一つだと感じています。

いそがい かずと
工事一課 **磯貝 一翔**さん

吉田工業の仕事で 感じるやりがい

現場を束ねる責任あるポジション

現場管理担当として、工程の作成や現場の表示物の作成、作業エリアの調整などの幅広い業務を行っています。直近で携わっていたのはケーブルトレイの溶接。作業完了後に足場を外し、上を見上げたときには「こんなに溶接したのか」と、少し誇らしい気持ちになりました。現場監督の業務は多岐にわたりますが、**現場を統括する司令塔として、たくさんの人と協力して工事を完成させることに、大きなやりがいと責任を感じています。**

